

厚木愛甲環境施設組合ごみ中間処理施設整備検討委員会（第9回）

日 時 平成29年2月28日（火） 午後2時～午後2時37分

場 所 厚木商工会議所 3階303中会議室

出席者（出席委員数14名／委員数15名）

横田委員長、高澤副委員長、荒井委員、嶋崎委員、座間委員、竹内委員、青木委員
大野委員、山市委員、西田委員、池貝委員、岩崎委員、矢野委員、平田委員

事務局 厚木愛甲環境施設組合（事務局長、事務局次長他）
国際航業㈱

傍聴者 2名

1 開 会

出席者数報告 委員14名出席

委員長あいさつ

本日は環境影響評価業務と施設基本設計業務の進捗状況について御報告いただく
予定でありますのでよろしくお願いいたします。

2 報告事項

(1) 環境影響評価の進捗状況について

事務局

資料1に基づき説明

議 長

ただいまの報告に対して御質問等がございましたらお出し願います。

議 長

特に質疑等ないので次の議題に移ります。

(2) 施設基本設計の進捗状況について

事務局

資料2に基づき説明

議長

ただいまの報告に対し、御質問等がございましたらお出し願います。

委員

200m間隔で破堤点を設定していますが、e点からf点まではその間の距離が長くなっています。この2点の間には何らかの破堤しない理由があるということですか。

事務局

資料2の2ページの地図をご覧ください。この地図の16.8Kと17.0Kの点には物流倉庫があって盛土等されているため破堤しないと考えています。

委員

盛土を行うことによってその盛土体積分の氾濫水を溜める容量が減少し、浸水する面積が大きくなると想像していましたが、逆に氾濫する面積は小さくなるという結果になったという説明でした。その点についてもう少し説明してください。

事務局

ハザードマップの考え方は各破堤箇所が破堤した際の解析を重ね合わせて浸水状況をシミュレーションするという手法で行うため、破堤箇所が少なくなった分流入する水の量が減り浸水域が狭くなったということです。

議長

シミュレーションとしてはこのような結果になったということですね。

委員

地図の県道酒井金田線の西側、中津川寄りにも浸水することを示す黄色等の部分がありますが、この浸水は中津川からの浸水なのでしょうか。

事務局

このシミュレーションは相模川の氾濫を想定したものですので、相模川からの浸水です。

議 長

ほかになければ、本件はこれで終わります。

3 案件

(1) 平成 29 年度の検討スケジュールについて

事務局

資料 3 に基づき説明

議 長

ただいまの報告に対し、御質問等がございましたらお出し願います。

議 長

緑地計画という言葉が頻繁に出てきましたが、災害廃棄物一時保管場所も兼ねるという意味で重要視しているということでしょうか。それとも、検討に時間がかかるという意味でしょうか。

事務局

緑地計画については地元の皆様に御利用いただく施設でありますので、地元の皆様から選出いただいた検討組織の中で議論を重ねて計画を作り上げていきたいと考えています。また、一時保管場所の機能については災害廃棄物処理計画の策定も進められているところですので、これとの整合も図って進めていきたいと考えています。このため、丁寧に検討を進める必要があると考えています。

委 員

大気質の現地調査は年 4 回行うことになっており最終調査は 12 月となっていて、各調査が等間隔になっていません。これは、現地調査結果の取りまとめに要する時間を考慮したためこのような予定になっているということですか。

事務局

12 月に現地調査を行い、その結果を整理するのが 1 月中と考えて、可能な限り早い時期に現地調査を行いたいと考えた結果です。

議 長

ほかになければ、平成 29 年度の検討スケジュールにつきましては、事務局説明の

とおりといたします。

4 その他

事務局

今年度は、新ごみ中間処理施設の整備に向けて具体的な検討を進めていただき誠にありがとうございました。今年度の検討委員会は本日で終了となります。4月以降、選出母体の役職改選や人事異動等により委員の方が交代される可能性があるかと思いますが、来年度も最新技術の収集に努めるとともに皆様の御意見をいただきながら環境や安全に配慮した施設となるよう更に検討を進めてまいりたいと思いますので引き続きよろしく願いいたします。

委員

過去に金田地区で浸水した事例はあるのでしょうか。

事務局

堤防が整備された以降は堤防が決壊した事例はないと思います。

副委員長

平成29年度のスケジュールについてお聞きします。来年の12月から2月の間で緑地計画の素案を出したいとのことでした。また、地元の検討組織を立ち上げたいとの説明もありましたが、スケジュールとのリンクはどのようになるのでしょうか。

事務局

可能であれば、地元の検討組織は4月からスタートしたいと考えています。この検討組織の中で整備コンセプトや整備方針となるようなものを作っていく、最終的に緑地のゾーニングというように形に進展していきたいと思っています。その検討組織の中には組合や国際航業も参加させていただきながら図面化していく、12月ごろにはある程度の形にしていき、年度内には完了していきたいと考えています。

副委員長

時間が十分ではない中で行う検討ですので、うまく検討組織をリードしていく必要があると思います。時間との競争になると思いますので、しっかりやってください。

事務局

承知しました。

議長

本委員会との連携という意味で、本委員会のメンバーが検討組織に入る等の考えはありますか。

事務局

具体的な構成員の考えはまだありませんが、地元のいろいろな分野の方々に入っていただきたいと思っています。また、検討の進捗状況については本委員会に逐次報告していきたいと思っています。

議長

それでは、ほかになければ、その他につきましてはこれで終了といたします。

5 閉会

副委員長

今日で今年度の活動が終了するわけですが、来年度からは先ほどからの議論の中でお分かりのとおり本格的な調査や検討に入っていくこととなります。このため、更に皆様の御協力をお願いすることとなりますのでよろしくお願いいたします。

本日はこれをもって閉会いたします。ありがとうございました。



《 第9回 ごみ中間処理施設整備検討委員会の様子 》